

かいせつ どうぐ どの道具でどの魚をとるでしょう？ さかな



タコつぼ

うみ そこ
海の底にしずめます。タコはせまいところがすきなので、えさをいれなくてもつぼにはいります。



かいほり

しお はま かい
潮がひいた浜で貝をほる道具です。かいほりは生活のためでもあり、あそびでもありました。



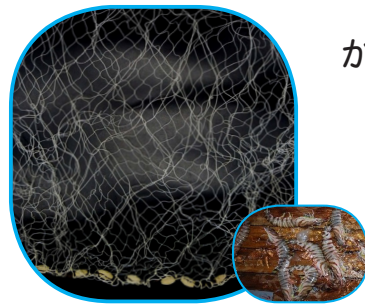
イカガナ

き
木でつくったにせものエビに針がついています。えさとかんちがいしたイカがかります。



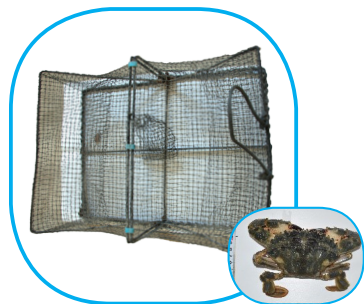
ウナギてご

いりぐち
入口からうなぎがはいると外にでられないしかけになっています。竹でできています。川でつかいます。



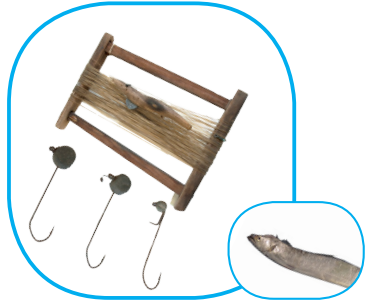
かしあみ（狩刺網）

いと
ほそい糸でつくられたあみです。エビが糸にからまります。エビ以外の魚にもつかいます。



カニかご

さかな
かごのなかにえさの魚をいれます。いちど中にはいると外にでられません。



タチばり

はり
タチウオをつるための針です。タチウオの口は大きいので、針も大きなものをつかいます。

この道具がつかわれた不知火海は「魚がわくような海」といわれるほどゆたかな海でした。

いろいろな種類の魚がいるので道具もたくさんの種類があります。いつか水俣病歴史考証館に実物をみにきてくださいね。

工場が水銀をながして海を汚したとき、知らずに魚をたくさん食べていた漁師の人たちがまづ病気になりました。水銀は止められることなくなれつづけ、たくさんの人が病気になりました。それが水俣病です。いまでも苦しみはつづいています。